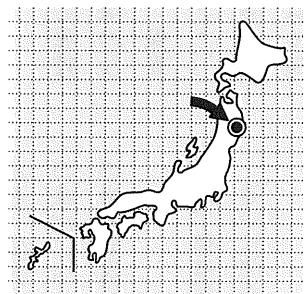


お母さんが元気であることが保育の原点



今号のレポーター

武田京子
岩手大学教育学部教授。専門は保育学(児童文化・家庭教育)。自分の時間ができたら、読み聞かせ活動に参加したいと思っています。

あおいとり幼稚園（岩手県盛岡市）

子育ても仕事も頑張る女性が増えていることはいえ、家庭の内外に問題はまだまだ山積みです。

「認可外だからこそできる保育を考えよう」

逆転の発想の保育施設を紹介します。

十年ほど前、初めてあおいとり幼稚園の存在を知った時、「年中無休、二十四時間保育をしている無認可保育所」というキャッチフレーズから、劣悪な保育環境が連想されて、あまり良い印象を持つことができなかった、というのが本音なのです。それを大きく変えたのは、園長先生が、社会人学生として私の勤務する大学に入学し、授業やゼミ活動を通じて、盛岡の保育事情や幼稚園の教育方針、詳しい保育の内容を知ることとなつたからです。

待機児童、延長・休日保育などのさまざまな問題が山積している現在、あおいとり幼稚園の保育システムから学べることは多いのではないかと考え、紹介してみたいと思います。

あおいとり幼稚園とは

あおいとり幼稚園は、平成十年七月、園児五名の託児所として、空き家になつた貸家を利用してスタートしました。二十四時間対応・年中無休をうたつてはいるものの、利用者は「家事をおろそかにしな

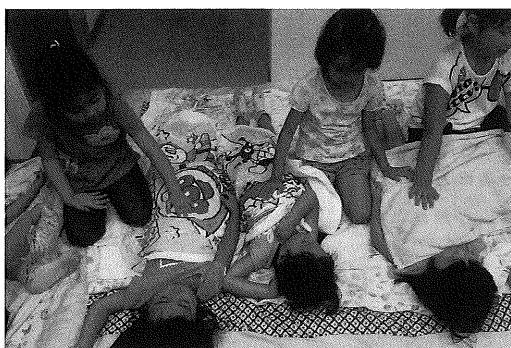
い」程度の片手間のパート勤務を希望する人が多く、利用時間は午前九時から午後三時までが大半でした。しかし、平成十五年ごろ、認可保育所の保育時間と勤務時間が合わないという理由から、教員、医療従事者、企業の管理職の利用者が急増しました。さらに、離婚による一人親家庭の利用者も増え、近くに大型ショッピングモールができると、土日の保育の要請も増えてきました。

そこで、平成十八年、個人経営の託児所から会社組織の保育事業として、小学校就学前までの最低限の教育を施す、より充実した体制をとるようになりました。現在は、小学校三年生までの学童保育を行う「キッズ」を併設しています。

いよいよあおいとり幼稚園へ

あおいとり幼稚園に伺うのは二年ぶりくらいです。約束の十二時ごろ、以前、中心として使われていた園舎に行つてみると、建物はそのままなのですが、他の名前の会社になつていて慌ててしましました。

連絡を取つて、無事たどり着いた第一園舎では、お昼寝の準備に保育士さんも子どもたちも、大わらわでした。楽しみにしていた「縦割り保育」の象徴のような、年上の子が小さい子を寝かしつけるところが見られました。



▲お姉さんは寝かしつけるのが得意です

の活動の機会が増えます。子どもたちの中に小学校へ行くことが具体的にイメージされ、「小1プロブレム」の心配などもありません。日々の活動の中にも機会をとらえて異年齢の交流の場があり、保護者からの評価のよりどころになっています。

保育施設というと、「まず園舎を建設する」と考えがちですが、ここは、園児数を考えて無駄のない経営をするため、使用に差し支えのない空き店舗などを利用して、保育施設としています。現在は、年齢別に分けた保育所二か所と学童保育の、合わせて三か所で活動しています。倉庫だった所に床材を張った第一園舎、ほとんど使用されなかつたペット病院の第二園舎、学童は、以前はレストランとして使われていた、地下のスペースを使用しています。子どもたちの遊び場として地下室を使用することに首をかしげる人もいると思いますが、子どもたちには、幼児は許されないけれど、小学生の「キッズ」になれば許されるという、一種のステイタスとしてとらえられているようです。

残念でしたが、早々に失礼して、車で二、三分の学童保育の場所に伺うことにしました。

こちらはちょうどランチタイム。夏休みに入ったところなので、ひまわり組（年長さん）は、小学生と一緒にお昼のサンドイッチを食べているところでした。あおいとり幼稚園では、「縦割り保育」が教育方針の一つで、年長の後半に近づくと、小学生と

園長先生ご夫妻へのインタビュー

場所を変えて、園長先生ご夫妻に、今までに感じていた疑問についてお伺いすることができました。発想の柔軟性は経営の全般にも反映していることがわかりました。

——お久しぶりですね。震災の時は大変でしたか？

三月十一日震災当日は建物の被害等はありませんでしたが、停電のため暖房が使えず、保護者のお迎えが来るまでしばらく送迎バスの中で暖をとりました。地震に驚いてすぐ迎えに来る人もいましたし、いつもより早く、十七時までに約三分の一が降園しました。介護・看護・医療の方は二十時までお迎えに来ることができず、ポット型の石油ストーブを囲んで、お迎えを待ちました。

とりあえず十二日、十三日を休園としましたが、医大に勤務している方から要請があり、お弁当持参を条件に、子どもたちの受け入れをしました。休園

ですから、保育士たちもお休みにしたのですが、面白いことに、「保育に参加したい」「あおいとりに行つたほうが安心できる」という声が上がり、何とか普通の生活に戻つてしましました。「いつもと同じ」生活を送るということがとても幸せで、みんながここに一緒にいるということが素晴らしいことだ、と再確認し合えた機会でもありました。

震災をきっかけに、保育そのものには変化がありました。被災地から移住してくる方、被災地の実家に戻る方、仕事が打ち切りになる方もありました。残った保護者の方たちと今後の保育につい



▲園長先生ご夫妻と子どもたち

て話し合い、二十四時間はやめるけれど、年中無休は維持すること、送迎バスは廃止としました。

——それはなぜですか？

震災直後、連絡が取れないことが、保護者にとって大きな不安となつたのです。送迎バスが津波にのまれた報道も、保護者の不安の原因の一つだつたのですね。

——震災の前に関東地方へ事業を拡大する話がありましたが、そちらのほうはどうなりましたか？

スタートは遅れましたが、埼玉県の川口市に、あおいとり幼稚園を開園できることになりました。

——なぜ、関東の埼玉県で行うことになつたのですか？

盛岡でも少子化が進み、園児数は現状維持のまま保育を行い、新しい模索を始めていました。頻繁に耳にする、関東地方での「待機児童問題」について

私たちなりに何か協力することはできないのか、と考えているところでした。ちょうどそのころ、看護の仕事のキャリアアップのため関東地方に転居した保護者の方から連絡が入つたのです。「三人の子どもを認可外の保育所に入れるのに、ひと月十二万円もかかりとても大変です。あおいとり幼稚園をこつちでもやつてもらえないでしょうか」という内容でした。

そこで、盛岡のスタート時と同様に、空き住宅を借り、園庭の代わりに近所の公園を利用してストレートさせたのです。保育料は盛岡と同じです（参考）四万四千円・給食費を含む。延長保育料なし）。公園で遊ぶ保育士と子どもの姿を見て、入園希望者が出てきました。認可保育所に入りづらい外国籍の子どもたちもいて、食事や子どもの名前などのカルチャーショックも経験しました。

今は、とても広い、住宅メーカーのショールームだつた場所に移転が決まり、八月に正式に開設することができます。

——埼玉のあおいとり幼稚園も、今までの保育を行なうのですか？

もちろんですよ。認可外のままで保育をするのは、土日の保育をするためと、今までの教育方針を保持したいためです。もちろん、認可を受ければ補助金も下りるので、財政的にはゆとりは出ますが、さまざまな締め付けも出てきます。あおいとりの考え方を尊重してくれる保護者だけを集めたい、というのが本音です。

——あおいとりのホームページには、

「常に預ける保護者の方の立場を考える」

「子どもたちの健康と安全を考える」

「基本的な生活習慣を身につけさせる」

「子どもたちの可能性を引き出していく」

の四つが挙げられていますが、具体的にはどんなことでしょうか？

「お母さんが元気でなければ、子どもも元気になれない」ということです。何といっても子どもを育て

る中心にいるのは、お母さんです。でも、間違えないでくださいよ。お父さんは子育てにかかわらなくともよいということではないのです。お母さんの心の安定には、絶対にお父さんが必要です。子育ての協力者であると同時に、お母さんの理解者であることが必要なのです。お父さんとお母さんが仲良くなければ、子育てはうまくいきません。ですから、お父さんとお母さんがデートできるように、と私たちちは率先してお子さんを預かります。

また、保護者の方たちを集めて、「お話し会」というような育児講座も行っています。別名「育児書には書いていないない子育てさぼり講座」



▲お話し会の様子

ですが、この話を聞くと皆さんには、ほつと肩の力が抜けて安心するようです。

——年配の保育士さんが多いように見受けますが、訳があるのですか？

保育士を選考する時、若い人よりあえて年配の方々を選んでいるようなどころはあります。資格を持つていることはもちろん大切ですが、子育て経験を含めた社会経験・人生経験を財産としてとらえたいと思つてゐるのです。とはいうものの、経験の上にあぐらをかいてしまつて、それを振りかざすようになつては困るので、育児講座の基本になつてゐる、新しい子育て観を理解してもらえるよう、常に研修をしています。

一般的の幼稚園教育の活動は午前中の活動の中に組み込まれていますが、「小さい子のお世話の日」

——あおいとりの「縦割り保育」はどのように考えたらよいですか？

私たちは、これから時代に求められるものとして、「人を思いやれる心」と「自律・創造できる力」を考

えています。この「人を思いやれる心」のところですね。きょうだい数が減少して、家庭内でも幼い子どもの世話をする機会が減り、年長の子どもがどのように行動しているのかを学習する機会も減っています。

一般的の幼稚園教育の活動は午前中の活動の中に組み込まれていますが、「小さい子のお世話の日」を組み込んで、おむつを換えたり、お散歩の時に小さい子の手を引いて安全を確保する配慮をしたり、お昼寝の時に寝かしつけることも経験するのです。



▲大きい組と一緒にのお散歩

また、大きい子どもが先生方に真剣に叱られている様子を見ることで、幼い子どもたちは、やつてよいことと悪いことの違いなどに気付きます。大きな

子どもだけに許されることに、成長へのあこがれを抱くようになります。

認可保育所の空き待ちで、一時的に利用するつもりの保護者の方たちのほとんどは、人とのかかわり合いを見聞きすることで学ぶことがたくさんあることに気付きます。きょうだいが生まれた時に、「妹(弟)も、また、お願いします」という気持ちを持つようになっています。

終わりに

幼稚園や保育所を選ぶ時、子どもの意思を尊重しがちです。けれども、本当は、保護者が安心する、納得ができるところ、という選択の柱も重要なのだといふことを、お話を聞きながらひしひしと感じました。



▲2013年夏、新設されたあおいとり幼稚園（埼玉県川口市）のエントランス

あおいとり幼稚園の名前の由来の一節が、ホームページに掲載されています。

ぼくたち随分と遠くまで行つたけど、青い鳥ここにいたんだな。これがぼくたちさんざん探し回つた青い鳥なんだ。

(あおいとり幼稚園ホームページから)

◆一訪問メモ◆

- ◆ 訪問時期：2014年7月
- ◆ 訪問場所：あおいとり幼稚園
- ◆ [住所] 岩手県盛岡市本宮 4-20-15
- ◆ [電話] 019-635-1322